

令和元年度 地域推進委員会県外視察研修 令和元年8月17日(土)

いざ研修へ・・・

朝7時頃から、地域推進委員の方が早々と集まり、播磨町の庁用バスに乗り、明石西インターから中国自動車道、名神高速道路を東へ行きました。途中京都東から京都南まで40分ほどの渋滞にありました。目的地は滋賀県高島市ということで名神高速道路から湖西道路へ入りました。途中2車線から1車線になるところでまた40分ほど渋滞に巻き込まれて2時間半ほどの予定が4時間半かかってしまいました。トイレ休憩も途中2時間ほどできない状態だったのに、いきいき活動推進委員さんがほんと我慢強い人ばかりで助かりました。

『中江藤樹記念館』

江戸時代初期、近江国高島郡小川村(現在の滋賀県高島市安曇町)で生まれた中江藤樹は、没後、“近江聖人”と言われるほど有名な儒学者で、日本陽明学の祖とも言われている。儒学とは人の生き方を追求する学問のことで、日本では江戸時代朱子学が主流であったが、中江藤樹は、形式や伝統にとらわれず、心の持ちようを第一とする陽明学を学びこれを当時の民衆に広めた人である。主な教えの内、次の2つを紹介しします。

致良知(ちりょうち)

“良知”とは誰とでも仲良く親しみ合い、尊敬し合い、認め合う心です。人はともすると自分の欲望を満たそうと行動してしまいそのことにより他の人を疎外したりする。そうすると恨みや憎しみ、妬みなど悪意に満ちた心が育ちます。その心と向き合い、自分の心に打ち克って、良知を鏡のように磨き、その良知に従い行いを正しくするよう日々努力することです。

五事を正す

“五事”とは「貌・言・視・聴・思」(ぼう・げん・し・ちょう・し)のことである。“五事を正す”とは、簡単に言うと和やかな顔つき(雰囲気)で接し、思いやりのある言葉で話しかけ、澄んだ清い目で物事を見つめ、しっかり耳を傾けて話を聞き、まごころを込めて相手のことを思うことです。いわば人と接するときの基本を示したということです。

その他、“孝行”(こうこう)や“知行合一”(ちこうごういつ)ということも言っておられます。興味のある方は調べてください。

研修の様子を紹介しておきます。帰りはスムーズで良かったです。

